

主要地方道成田松尾線XII

——芝山町新山遺跡43-9地点・宝馬遺跡1709-37地点——

平成13年3月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

主要地方道成田松尾線 XII

— 芝山町新山遺跡43-9地点・宝马遺跡1709-37地点 —



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第397集として、千葉県土木部の主要地方道成田松尾線改良事業に伴って実施した山武郡芝山町新山遺跡43-9地点、宝馬遺跡1709-37地点の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文土器等の貴重な資料が得られるなど、この地域の縄文時代や古墳時代以降の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年3月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 中村好成

凡　　例

- 1 本書は主要地方道成田松尾線道路改良事業（芝山地区）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は下記の遺跡を収録したものである。
新山遺跡43-9地点 千葉県山武郡芝山町宝馬字新山43-9ほか（遺跡コード409-033）
宝馬遺跡1709-37地点 千葉県山武郡芝山町宝馬字籠作1709-37ほか（遺跡コード409-035）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、成田調査室長 西口徹が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部道路建設課、千葉県成田土木事務所、芝山町教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第2、6図 芝山町発行 1/2,500都市計画図「芝山町」(17)
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「多古」(N1-54-19-10-2)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による平成12年撮影（1/10,000）のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方針は、すべて座標北である。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経過	1
第2節 遺跡の位置	1
第2章 新山遺跡43-9地点	4
第1節 調査の概要	4
第2節 遺構と遺物	4
1 弥生時代	4
2 古墳時代	4
第3章 宝馬遺跡1709-37地点	8
第1節 調査の概要	8
第2節 遺構と遺物	8
1 繩文時代	8
2 中近世	8
第4章 まとめ	11
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第7図 宝馬遺跡1709-37地点全体図及び 確認調査トレンチ、グリッド配置図	9
第2図 新山遺跡43-9地点周辺地形図	5	第8図 宝馬遺跡1709-37地点001号土坑及び 002号溝実測図	9
第3図 新山遺跡43-9地点全体図及び 確認調査トレンチ、グリッド配置図	6	第9図 宝馬遺跡1709-37地点003号段状整形遺構 実測図	10
第4図 新山遺跡43-9地点包含層出土遺物 実測図	6	第10図 宝馬遺跡1709-37地点包含層出土遺物 実測図	10
第5図 新山遺跡43-9地点出土001号土坑実測図	6		
第6図 宝馬遺跡1709-37地点周辺地形図	7		

図版目次

図版 1 遺跡周辺航空写真	図版 4 宝馬遺跡1709地点002号溝状遺構
図版 2 新山遺跡43-9地点発掘前風景	図版 4 宝馬遺跡1709-37地点003号段状整形遺構
図版 2 新山遺跡43-9地点001号土坑全景	図版 5 新山遺跡43-9地点、宝馬遺跡1709-37地点 出土遺物
図版 3 宝馬遺跡1709-37地点遺跡発掘前風景	
図版 3 宝馬遺跡1709-37地点001号土坑全景	

第1章 はじめに

第1節 調査の経過

主要地方道成田松尾線は芝山町大里と松尾町五反田を結ぶ県道である。現在、空港、国道296号線（バイパス）から芝山町山田間及び、芝山町大台から松尾町五反田間が開通している。

また、道路が通る地域は埋蔵文化財が豊富に所在する地域であり、財団法人千葉県文化財センターでは昭和53年度から、千葉県土木部の委託を受け、路線内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施し、報告書を刊行している¹⁾。

本書で報告する遺跡は、南から芝山町 宝馬遺跡1709-37地点、新山遺跡43-9地点の2遺跡である。各年度ごとの調査の経過及び担当は次のとおりである。

平成9年度

発掘調査 新山遺跡43-9地点

調査部長 西山太郎 調査課長 古内 茂

東部調査事務所長 石田廣美 主任技師 渡邊昭宏

平成10年度

発掘調査 宝馬遺跡1709-37地点

調査部長 沼澤 豊 調査課長 上野純司

東部調査事務所長 三浦和信 主任技師 安井健一

平成12年度

整理作業 新山遺跡43-9地点、宝馬遺跡1709-37地点

水洗・注記から原稿執筆、報告書刊行まで

調査部長 沼澤 豊 調査課長 上野純司

東部調査事務所長 折原 繁 成田調査室長 西口 徹

第2節 遺跡の位置と環境（第1図）

房総半島は、ほぼ中央（木更津と茂原を結ぶ線）で地形が二分される。北半分は、下総台地と東京湾岸、九十九里海岸及び利根川流域の低地、南半分は、上総丘陵、嶺岡山塊などから構成される安房丘陵などの山地的な地形である。

本書の2遺跡が所在する山武郡芝山町は、千葉県の北東部に位置し、地形的には下総台地の南東部になる。下総台地は標高15m～80mの平坦な台地であるが、利根川、東京湾及び太平洋に注ぐ大小河川により浸食を受け、樹枝状の複雑な地形を呈している。下総台地南東部では九十九里海岸に注ぐ、木戸川、栗山川及びその支流に浸食を受け、南東方向へ、河川に沿って台地が並んでいる。各台地からは河川に向かって細長く樹枝状に舌状台地がのびている。これらの台地上の平坦部には、ほとんど全域に遺跡が確認され

ている²⁾。

本書の2遺跡もこれらの舌状台地上に位置している。

注1 以下の11冊の報告書が刊行されている。

萬崎博昭ほか 昭和58年 「主要地方道成田松尾線I 小池麻生遺跡 小池向台遺跡」 勅千葉県文化財センター

高橋賢一ほか 昭和60年 「主要地方道成田松尾線II 小池新林遺跡 小池地蔵遺跡」 勅千葉県文化財センター

萬崎博昭ほか 昭和61年 「主要地方道成田松尾線III 鯉ヶ窪遺跡 中台柿谷遺跡 遠山天之作遺跡」 勅千葉県文化財センター

伊藤 智樹ほか 昭和61年 「主要地方道成田松尾線IV 小池元高田遺跡 柳谷遺跡 上宿遺跡 井森戸遺跡」 勅千葉県文化財センター

宮 重行ほか 昭和62年 「主要地方道成田松尾線V 中台貝塚・松尾東雲遺跡・八田太田台遺跡」 勅千葉県文化財センター

渡邊高弘ほか 平成3年 「主要地方道成田松尾線VI 芝山町小池地蔵II遺跡 宮門遺跡」 勅千葉県文化財センター

渡邊高弘ほか 平成4年 「主要地方道松尾線VII 芝山町御田台 小池新林遺跡」 勅千葉県文化財センター

石塚 浩 平成10年 「主要地方道成田松尾線VIII 松尾町名城遺跡」 勅千葉県文化財センター

香取正彦ほか 平成10年 「主要地方道成田松尾線IX 大台西藤ヶ作遺跡 大堀切遺跡 洞谷台遺跡 深田台遺跡」 勅千葉県文化財センター

石倉亮治ほか 平成11年 「主要地方道成田松尾線X 芝山町浅間台遺跡」 勅千葉県文化財センター

石倉亮治ほか 平成11年 「主要地方道成田松尾線XI 芝山町山田宝馬古墳群」 勅千葉県文化財センター

2 千葉県教育委員会 平成10年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)－香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂版)－」



1:25,000 多古

第1図 遺跡位置図

第2章 新山遺跡43-9地点

第1節 調査の概要

新山遺跡43-9地点は、山武郡芝山町宝馬字新山22-2ほかに所在し、栗山川の支流の高谷川の支谷によって開析された舌状台地の先端と台地のくびれ部分の2か所に位置する。隣接した遺跡の調査例として、北側に深田台遺跡¹⁾、沖ノ台I遺跡²⁾、沖ノ台II遺跡³⁾、大台西藤ヶ作遺跡⁴⁾などがある。これらはいずれも主要地方道成田松尾線の建設に伴う発掘調査である。

沖ノ台I遺跡は近接する北側の台地上の位置する。古墳時代後期の竪穴住居跡などが検出され、古鐵治跡も検出されている。また、調査区外の南側山林中には精錬炉跡の存在が確認されている。

沖ノ台II遺跡は沖ノ台I遺跡の斜面部及び深田台遺跡との間の小支谷内にある。沖ノ台I遺跡の製鉄遺構に関連した遺跡で、炭窯跡、作業場遺構が検出されている。また、遺物として製鉄の際に破壊された精錬炉の破片及び鉄滓が多く出土している。

深田台遺跡は奈良・平安時代の住居跡が4軒検出されている。調査区外の東側と西側に同時期の集落跡が展開している可能性は高い。

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、遺跡内を北西から南東へ長く帯状に調査している。対象面積は1,900m²で細長いため、道路建設用の幅杭に沿って細長くグリッドを設定し、確認調査を行った。

調査は平成9年8月1日から同年8月31日まで実施した。グリッド及び調査区の長辺に合わせて確認グリッドを設定し、調査を開始した。調査は上層確認調査、上層本調査、下層確認調査、下層本調査の順に行う予定であったが、190m²の上層確認調査終了時に古墳時代と思われる土坑が1基確認されたのみであったため、本調査に移行しなかった。下層調査についても確認調査76m²を行ったが、石器等を検出しなかつたため本調査へは移行しなかった。

第2節 遺構と遺物

1 弥生時代～古墳時代

弥生土器（第4図1）出土した土器は1は弥生土器の胸部の破片である。胎土は比較的粗く表面は櫛歯状の沈線が施されている。

2 古墳時代

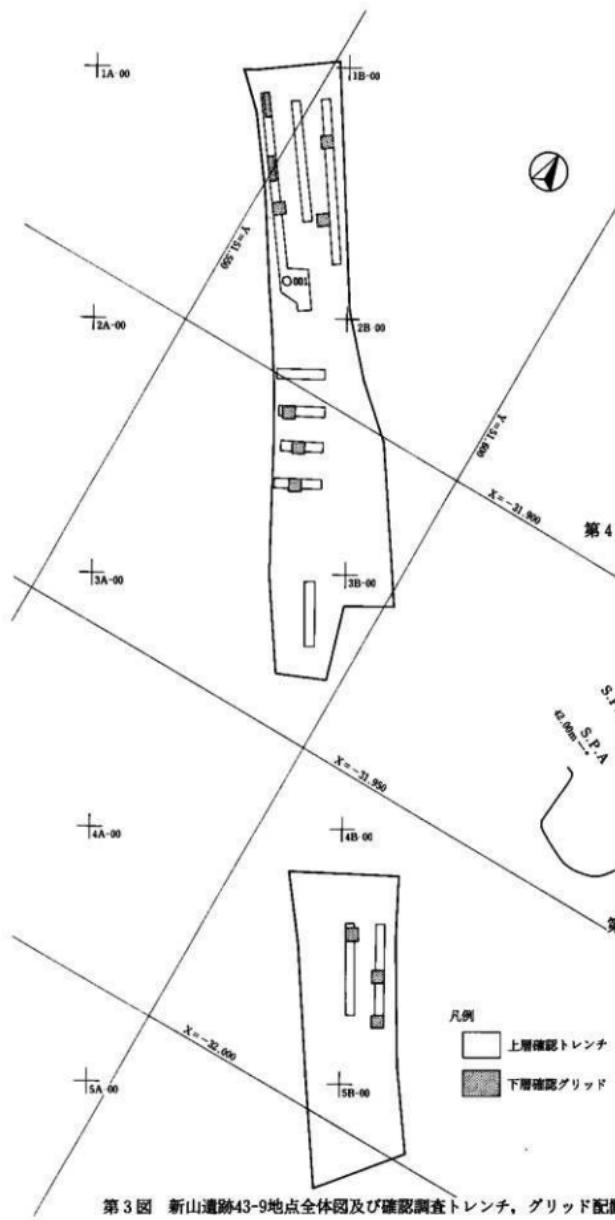
土坑が1基検出された。確認面では怪が南北1.48m、東西1.65mのやや楕円に近い円形を呈する。底部付近はやや方形に近い形で中央部分が皿状にくぼむ。確認面からの深さは0.92mを測る。包含層から土師器の細片が數点出土しているため、土坑そのものの遺物や覆土の観察記録はないけれども、土坑の形状などから判断すると古墳時代のものと考えられる。

注1. 4 香取正彦ほか「主要地方道成田松尾線IX-芝山町大台西藤ヶ作遺跡・深田台遺跡・桐谷台遺跡・大堀切遺跡-」 勅千葉県文化財センター

2 平成8年度、勅千葉県文化財センター調査。

3 平成10年度、勅千葉県文化財センター調査。





第3図 新山遺跡43-9地点全体図及び確認調査トレンチ、グリッド配置図 (scale 1/800)

第4図 新山遺跡43-9地点包含層
出土遺物実測図
(scale 1/4)



第5図 新山遺跡43-9地点出土
001号土坑実測図
(scale 1/80)



凡例

- 上層確認トレンチ
- 下層確認グリッド



第6図 宝馬遺跡1709-37地点周辺地形図 (scale 1/2,500)

第3章 宝馬遺跡1709-37地点

第1節 調査の概要

宝馬遺跡1709-37地点は、山武郡芝山町山田字龍作1709-37ほかに所在し、栗山川の支流の高谷川の支谷の最深部の標高約40mの台地上に位置する。隣接した遺跡の調査例として、同じ台地上の北側部分に深田台遺跡、対岸の台地上に沖ノ台Ⅰ遺跡、その直下の斜面部に沖ノ台Ⅱ遺跡がある。各遺跡の概要是新山遺跡43-9地点で述べたとおりである。

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、国道296号線との取り付け部分に当たる。遺跡内を東西方向に帯状に細長く調査をしている。対象面積は850m²で細長いため、道路建設用の幅杭に沿って細長くグリッドを設定し、確認調査を行った。

調査は平成10年8月17日から同年8月31日まで実施した。グリッド及び調査区の長辺に合わせて確認グリッドを設定し、調査を開始した。調査は上層確認調査、上層本調査、下層確認調査、下層本調査の順に行う予定であったが、85m²の上層確認調査終了時に中近世の土坑1基、溝状造構1条、段状整形跡1か所確認されたものの造構は稀薄のため本調査へは移行しなかった。下層調査についても確認調査17m²を行ったが、石器等を検出しなかったため本調査へは移行しなかった。

第2節 遺構と遺物

1 繩文時代

縄文土器（第8図1、2）1及び2は縄文時代中期の加曾利E II式の土器片である。他に同時期の土器片が数点検出されている。

2 中近世

001号跡（第9図）

深さは確認面より約0.25mを測る。細長いプランで北側は発掘区の外へのびるようである。覆土に焼土粒や炭化物を多量に含む比較的しまりのある土坑である。性格は不明である。時期は中近世以降のものと思われる。

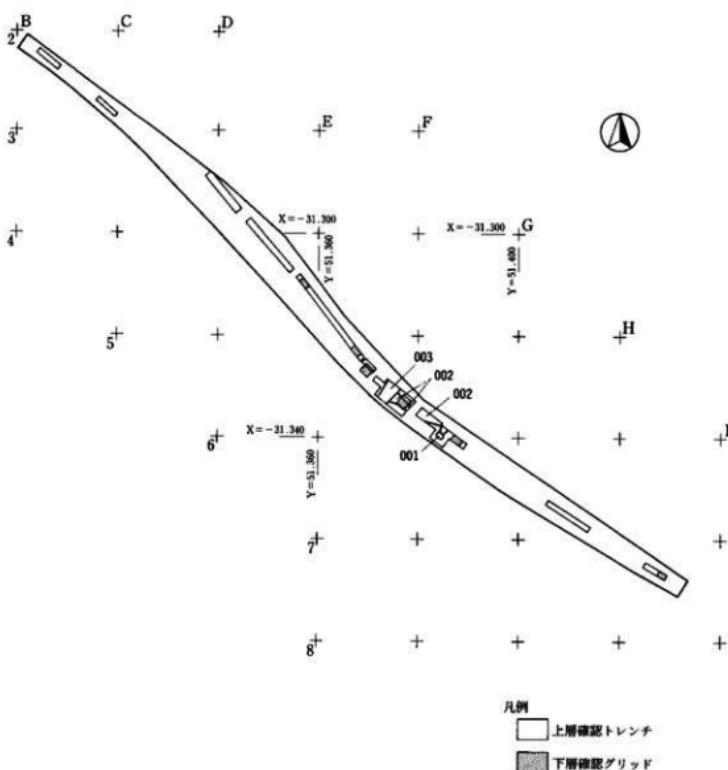
002号跡（第10図）

001号跡の北側に東西方向に走る溝である。上面部分は擾乱が激しい。床面は約0.4mの幅で比較的しっかりしている。001号跡との新旧関係については調査区外にのびていくため不明である。時期は中近世以降のものと思われる。

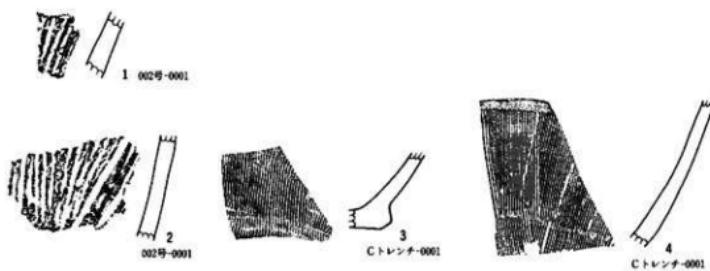
003号跡（第10図）

002号跡の溝の続き部分からやや北西方向に幅約1m、深さ0.35～0.4m程階段状に整形されている。調査区外に造構がのびているため規模等は不明である。床の状況は硬化面というほど固まっていないが、意図的に平場を造成した跡と思われる段上整形跡と思われる。

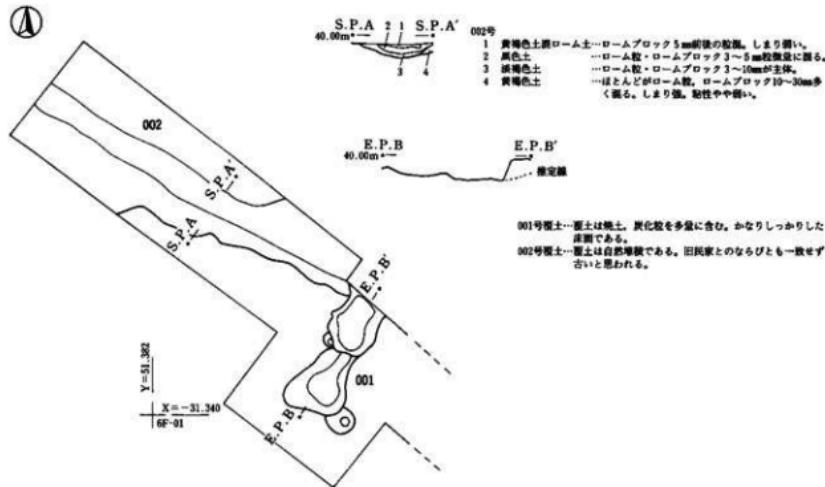
擂り鉢（第8図3、4）3及び4は擂り鉢の胸部と底部である。18世紀末頃の陶磁器片が数点検出されていたので同時期のものである可能性が強い。



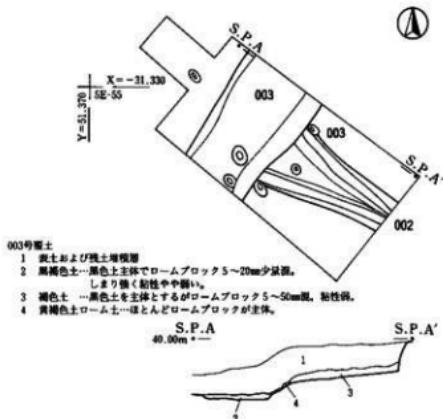
第7図 宝馬遺跡1709-37地点全体図及び確認調査トレンチ、グリッド配置図 (scale 1/1,000)



第8図 宝馬遺跡1709-37地点包含層出土遺物実測図 (scale 1/4)



第9図 宝馬遺跡1709-37地点001号土坑及び002号溝実測図 (scale 1/80)



第10図 宝馬遺跡1709-37地点002号溝及び003号段状整形実測図 (scale 1/80)

第4章 まとめ

新山遺跡43-9地点

今回の調査は調査区が遺跡の北側部分の舌状台地の最先端から斜面部にかかる部分であり、遺跡の調査そのものが細長い調査区であったため遺跡全体の内容を明らかにしたものとは思われない。今回の調査区では古墳時代のものと思われる土坑が1基検出されたが、遺構密度及び遺物等の検出が稀薄なため確認調査の段階で終了した。なお、隣接する台地上には少なからず当該時期の集落等が展開しているものと思われる。

また下層の確認調査も併せて行われたが、遺物等は検出されなかった。

宝馬遺跡1709-37地点

調査区は栗山川の支谷の最深部から台地上に向かった斜面部から台地上にかかる細長い帯状の調査区であったため、確認調査の段階で中近世にかかる遺構が検出されたのみである。土坑1基、溝1条、段状整形遺構1か所という構成であるが、いずれの遺構も互いの関連性は乏しく性格も不明である。

また下層の確認調査も併せて行われたが、遺物等は検出されなかった。

写 真 図 版



航空写真

新山遺跡43-9地点



発掘前
風景



001号土坑
風景

宝马遺跡1709-37地点





002号
溝状遺構



003号
段状整形遺構



(宝馬遺跡1709-37)

(新山遺跡43-9)



(表)
(宝馬遺跡1709-37)



(裏)
(宝馬遺跡1709-37)

新山遺跡43-9地点、宝馬遺跡1709-37地点出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しゅようちほうどうなりたまつおせん							
署名	主要地方道成田松尾線 XII							
副書名	-芝山町・新山遺跡43-9地点・宝馬遺跡1709-37地点-							
巻次	XII							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第397集							
編著者名	西口徹							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL043-422-8811							
発行年月日	西暦2001年3月31日							
所取遺跡名	所取遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新山43-9	千葉県山武郡芝山町宝馬字新山43-9ほか	409	033	35度 42分 20秒	140度 23分 10秒	19970801～ 19970829	850	道路建設
宝馬1709-37	千葉県山武郡芝山町宝馬字龍作1709-37ほか	409	035	35度 42分 30秒	140度 23分 12秒	19980817～ 19980831	1,900	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
新山43-9	包蔵地	弥生時代 古墳時代 縄文時代 中近世	土坑	1基	弥生土器（後期） 土器細片（土器片） 縄文土器（中期） 陶磁器片等			
宝馬1709-37	包蔵地		土坑 溝状遺構 段状整形遺構	1基 1条 1カ所				

千葉県文化財センター調査報告第397集

主要地方道成田松尾線 XII

—芝山町・新山遺跡43-9地点・宝馬遺跡1709-37地点—

平成13年3月31日発行

編 集 財團法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県土木部

千葉市中央区市場町1番1号

財團法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正 文 社

千葉市中央区都町1丁目10番6号
